

小石川中等に文科大臣賞

大泉高・佐々木さん入賞

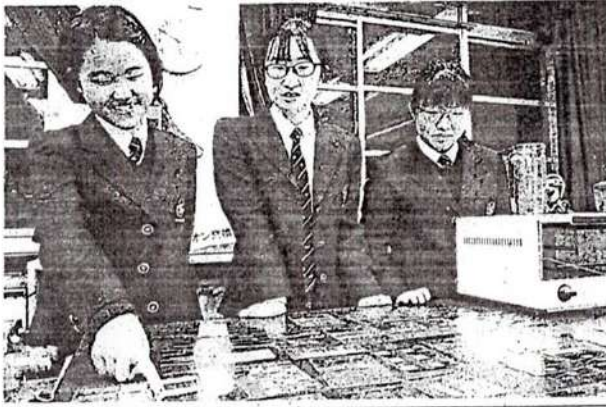
学生科学賞中央審査

中高生の優れた科学研究を表彰する第66回日本学生科学賞(読売新聞社主催、旭化成協賛)の中央審査が行われ、都内からは都立小石川中等教育学校(文京区)の「銅への着色研究班」が文部科学大臣賞、都立大泉高校(練馬区)の佐々木俊輔さん(17)が科学技術振興機構賞にそれぞれ輝いたほか、各校で受賞が相次いだ。

変えるための方法を探った。アルミ箔を使った先行研究を改良し、銀色に染まるまでの時間を大幅に短縮させることに成功。廃液の量も減らすことができた。

オープントースターを使った実験にも挑戦し、加熱時間などを細かく調整することで、金や銀だけでなく、オレンジやピンクなど様々な色が生まれた。色の変化を生かしたアート作品も仕上げ、受賞時には「美しい研究」と高い評価を得た。

研究責任者を務めた武井智咲さん(15)は「友人というよりも、同じ課題に取り組んだ『戦友』かな」と受賞を喜ぶ。半年以上をかけた数百枚の銅板や銅箔を使って実験を繰り返した。失敗も多かったが、互いに成果を伝え、褒め合うことで團結することができたという。



実験で作った銅板や銅箔を前に受賞を喜ぶ(左から)日吉さん、武井さん、鈴木さん

文部科学大臣賞

小石川中等教育学校3年「銅への着色研究班」
日吉雪乃さん、武井智咲さん、鈴木凛さん

銅の色変化方法探る

メッキや加熱によって、美しい金色や銀色に変わっていく銅板。化学研究会に所属し、クラスメートでも

ある3年生の3人は、文化祭などで小学生向けの実験教室も開いていて、「安全、短時間、簡単」に銅の色を

科学技術振興機構賞

大泉高2年 佐々木俊輔さん



「読唇技術」の研究が高く評価された佐々木さん

「読唇技術」向上挑む

日本語を発音する際の特徴を突き止め、口の動きの解析技術を向上させることで、障害者らの手助けだけでなく、音声のない防犯カメラ映像の分析といった新しいコミュニケーション手段の確立に道を開いた。

研究を始めたきっかけは、既存のスマートフォンアプリなどの音声認識技術に物足りなさを感じたことだ。障害があっても声をうまく出せない人には不向きで、騒音がある場で使うことも難しかった。口の動きだけで発言の内容を理解できる仕組みを作りたいと思った。

必要になるのは「読唇技術」だが、英語に比べて日本語の認識精度は低かった。まずは友人の協力を得て日本語を収録した動画を1万本も作った。失敗を繰り返しながらすすべてのデータを

そのほかの受賞者は次の通り(敬称略)。

- 【中学】
 - 入選1等・東京農業大第一高中等部2年 秋本千尋、原優花
 - 東京学芸大付属竹早中3年 金坂真歩
 - 入選2等・筑波大付属中2年 六沢見空
 - 玉川学園中学部3年 原田悠世

【高校】

- 読売新聞社賞・「割当問題の拡張と解法について」筑波大付属駒場高2年 平田誠治
- 入選1等・東京工業大付属科学技術高3年 吉田真海菜、久松麟太郎
- 入選2等・都立小石川中等教育学校1年 高村美羽
- 入選3等・都立小石川中等教育学校2年 山下結菜
- トルコ地震救援募金 読売光と愛の事業団 03・3217・3473(敬称略)

▽世田谷区 平野純(1万円) 眞島芳人(5千円)

送金は郵便振替(0019 0・8・72319、読売光と愛の事業団)などで。通信欄に必ず「トルコ」と記入。匿名希望の方は「匿名」と明記を。

読売新聞社見学(15日)

◇東京本社 行知学園日本語校

読売演劇大賞30回記念特別展

読売演劇大賞の開催30回を記念した特別展が開かれています。30回分の感動を分かち合いたいというテーマに歴史受賞者の写真や記事パネル、受賞対象の公演パンフレットなどを展示しています。

【会期】2月24日(金)まで。※土日祝日は休み。入場無料

【時間】午前10時から午後5時半まで。最終日24日は正午まで。

【会場】読売新聞東京本社3階よみうりギャラリー(千代田区大手町1-7の1、大手町駅C3出口直結)